

五洋食品、タイで洋菓子現地生産

冷凍洋菓子メーカーの五洋食品産業（福岡県糸島市、舛田圭良社長）はタイの企業と現地生産について業務提携したと6日公表した。日本からの輸出に比べ、現地生産で価格競争力を高めるのがねらい。

提携したのはタイのSrif Frozen Foods。同社のグループ会社とタイでの販売に関する独占契約を2014年5月に締結し、販売を促進してきたが、現地の消費者が求める価格で提供できず、輸出は一旦停止状態にあった。

同社製品を高く評価していたSrifグループの強い意向もあり、レシピ・仕様書に基づく製品の共同試作を1年間継続。五洋食品の開発・生産スタッフがSrifの工場生産指導やリモートによるテストを重ね、現地工場での生産にめどが立った。さらにタイの小売企業からも受注があったため業務提携したという。

五洋食品はSrifに対して製品の仕様書・レシピを開示し、タイでの生産をアドバイスする。Srifはタイでの独占販売者として販売を促進し、五洋食品が収益の一部を対価として受け取る。また、五洋食品はSrifが生産した製品を独自に開拓したタイ国内の販売チャネル、タイ以外の国で販売する権利を持ち、将来的には販路拡大の可能性を探る。

Srif Frozen Foodsは1986年設立。資本金1億2500万バーツ（4億3500万円）。所在地はタイ中部に位置するカンチャナブリ県。フォイトン・ケーキ（タイの菓子）、ベーカリー製品、冷凍生地、ココナッツロールなどの製造販売を手掛けている。年商は非公表。

QP「業務用回復進むも首都圏に遅れ」

業務用市場の自粛要請解除後の動きについて、キューピーの白井利政執行役員フードサービス本部長は次の様に実態を語っている。

「自粛解除後、飲食市場は85～90%ぐらいまで売上げが回復してきたようだ。惣菜も戻りつつある。一番厳しかった外食が60～70%台からその後10ポイントほど回復した模様。

問題は首都圏であり、需要が戻り切っていない。むしろ全体を押し下げている。首都圏



白井本部長

では特に感染者が再び増えているため、自主的な自粛ムードもあるようだ。

地方ではホテルに宿泊客が戻りつつあり、バイキングを再開したところも出てきた。ただ、都心では宿泊客が戻っていない。この先の動向を注意深くみていく必要がある」。

QP、北米卵会社譲渡で経営負担軽く

キューピーは連結対象子会社で鶏卵加工品・乾燥肉を製造販売している米国のHenningsen Foodsの全株式を卵・ポテト・チーズの大手メーカーMichael Foods of Delaware社（MFI）に1日譲渡したが、タマゴ事業を担当する齋藤謙吾取締役専務は次の様に背景やねらいを語っている。

「当社はHenningsen社と1971年に取り引きを開始し、その後連結子会社とした。同社は乾燥卵を得意とするが、収益が安定しない。そこで世界最大のタマゴメーカーのMFI社に経営を委ねた方が継続性、発展性があると判断した。中計で重点化する中国・アジア市場とのシナジー効果も見えない。今回の譲渡に伴い、人材を派遣するリスクも軽減される。

北米のタマゴ製品市場は可能性があり、当社はQ&B社の事業を継続する」。

キューピーはMFI社に次ぐ世界第2位のタマゴメーカー。MFIとも取り引きがある。



齋藤専務

アヲハタ上期、家庭用堅調で大幅増益

アヲハタの第2四半期（12～5月）の連結売上げは1.3%増103億5100万円と増収で、営業利益は家庭用が堅調に推移し57.6%増2億8900万円、経常利益20.3%増2億7300万円と大幅増益、純利益は9.4%増1億5100万円と利益を大きく改善した。

冷凍果実を含む産業用は新規受注拡大が進まず、土産品や贈答品向け販売も減少。業務用ポーションジャム等の販売も減少した。

鳥貴族、6月は大幅回復

鳥貴族の6月の直営既存店は客数32.2%減、客単価8.2%増で売上げが26.8%減と前年実績を下回ったが、ほぼ休業していた5月の87.9%減に比べて大幅に改善した。